



川崎市と中国・瀋陽市の
環境技術の連携に関する今年度の
取組(案)について

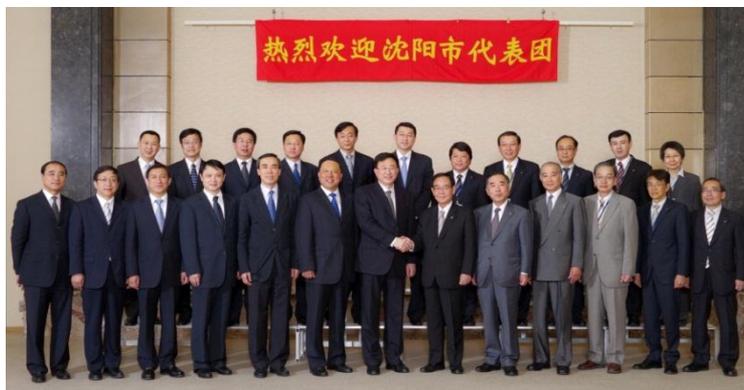
川崎市環境局環境総合研究所
2014年6月10日

《項 目》

- 1 環境技術における瀋陽市との連携の経緯
- 2 環境関係5機関の協力に関する覚書
- 3 アジア・太平洋エコビジネスフォーラム
- 4 瀋陽市環境技術研修生受入事業
- 5 川崎市・瀋陽市都市間連携事業(案)

環境技術における瀋陽市との連携の経緯

- 1981年8月 友好都市議定書調印
- 1997年5月 環境技術交流協力に関する議定書締結
→環境技術研修生受入開始
- 2005年8月 環境技術職員受入・派遣協定書締結
- 2009年2月 循環経済発展協力に関する協定書締結
- 2009年6月 日本環境省及び中華人民共和国環境保護部による日本国川崎市及び中国瀋陽市の環境にやさしい都市の構築に係る協力に関する覚書締結
- 2011年5月 循環経済発展協力に関する覚書締結（友好都市提携30周年）
- 2012年5月 環境関係5機関の協力に関する覚書締結（曾維書記来川）



2011年 友好都市提携30周年

環境関係5機関の協力に関する覚書

(川崎市環境技術情報センター、公害研究所、公害監視センター※と瀋陽環境科学研究院、環境監測センターの協力に関する覚書)

- (前略)さらに相互の環境模範都市づくりに向けた協力を推進し、廃棄物の資源化や再利用、産業公害対策、水環境の保全、大気環境の監視測定及び緊急時の予報などの経験・情報を共有するため、川崎市・瀋陽市の環境関係5機関の協力に関する覚書を締結し、以下の取組を行うことを確認する。
 1. 5機関共通の認識のもと協力体制の構築を進める。
 2. 相互の協力を通じ、低炭素社会、循環型社会、自然共生型社会の構築に向けた、環境科学研究、環境監視の分野における先進的な取組について情報交流を行う。
 3. 環境分野における情報交流の基盤づくりを推進する。
 4. 環境分野に関する人材の交流体制を構築し、研修等を通じて、相互の人材の育成を図る。
 5. 環境施策や制度化などの取組について情報交換を図る。
 6. 環境分野における静脈産業の関連技術・情報を収集整理し共有を図る。
 7. 水環境の保全に向けた情報交流を図り、取組及び研究を推進する。
 8. 大気汚染に関する緊急時の予報警報に係る体制や研究成果について情報共有を図る。
 9. PM2.5などの対策を推進するため、観測体制、測定技術及び研究成果の共有を図る。
 10. 連絡体制を確立し、5機関の協力の進捗状況の共有を図る。

※ 2013年2月 川崎市環境技術情報センター、公害研究所、公害監視センターの3機関が川崎市環境総合研究所に再編・統合した

アジア・太平洋エコビジネスフォーラム

◎産業と環境が調和した持続可能な都市モデル形成を目指し、先進的な環境技術・戦略の情報交換の場として、UNEP（国際環境計画）との連携により、2004年度から毎年開催。

◎過去（10回開催）の海外参加者のべ269名。



《2013年度》

■日程：2014年2月12日（水）、13日（木）、14日（金）

■会場：《12日》市内環境関連施設視察、《13日》川崎市環境総合研究所、《14日》川崎市市民ミュージアム

■参加者：UNEP IETC、中国・瀋陽市、マレーシア・ペナン州、その他アジアの諸都市ほか

■セッションテーマ：2月13日（木） Session 1：二国間クレジット制度の取組

Session 2：川崎市と瀋陽市の大気環境の研究連携

Session 3：持続可能な都市の取組

Session 4：UNEPプロジェクト

2月14日（金） Session 5：アジアの都市の環境への取組



【瀋陽市】

■参加者：5名（環境保護局副局長、環境科学研究院副院長、環境監測センター副センター長、環境保護局処長2名）

■発表内容：環境科学研究院 「瀋陽環境科学研究院における国際交流および研究成果について」
環境監測センター「瀋陽—川崎市 大気環境監測における研究協力について」

※ 発表データ：<http://eri-kawasaki.jp/eco-business-forum/3453/> からダウンロード可

※ 発表の中で、瀋陽市から、今後、川崎市と大気品質の予報、発生源の解析について研究協力を進めていきたい旨の発言あり。

《2014年度》

■日程：2015年2月上旬 開催（予定）

※ 瀋陽市関係者を招聘予定

瀋陽市環境技術研修生受入事業

友好都市である中国・瀋陽市の環境問題改善に寄与するため、1997年度から環境技術研修生受入事業を開始。2013年度まで16回、のべ35名の受入を実施。

2013年度実施結果

- ・期 間： 2013年11月10日～12月8日(29日間)
- ・内 容： 川崎が有する優れた環境技術やノウハウを活用した環境行政研修、環境技術研修(企業研修)及び関連施設の視察等
- ・研修生： 馬 玉濤(瀋陽市蘇家屯支局汚染対策課長)
劉 智(瀋陽環境科学研究院エンジニア)



2014年度実施予定

- ・期 間： 2014年11月～12月(29日間)
- ・研修生： 瀋陽市環境保護局職員 2名

2013年度瀋陽市環境技術研修の様子

川崎市・瀋陽市都市間連携事業(案) ①

1. 目的

瀋陽市における地球温暖化関連物質(SLCPsを含む)と、その発生を抑制するための大気汚染物質(PM2.5など)の削減(コベネフィット)を目指し、コベネフィット型の人材・組織のモニタリング能力の構築や政策立案支援等の協力活動を強化・促進する。

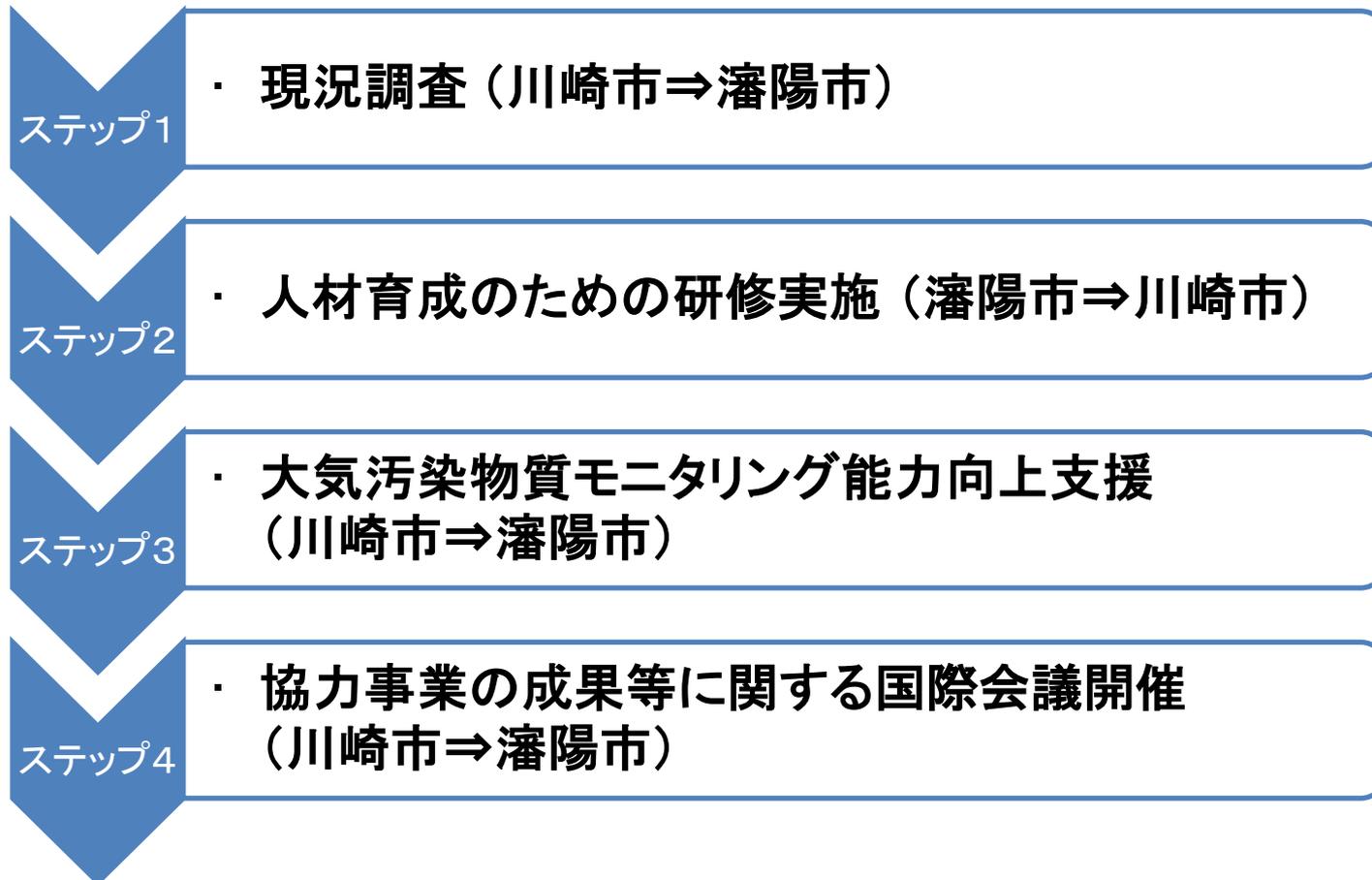
2. 取組の基本的考え方

「アジアにおける大気汚染問題の解決に向けた今後の取組;平成25年3月 安倍総理」を踏まえ、下記の基本的人考え方に取り組む。

- ① 清浄な空気の共有を目指す
- ② 総合的な取組(観測データ、大気汚染メカニズム・動態、健康影響などの知見の共有)の推進
- ③ 既存の枠組み(EANET、UNEP、CAAなど)を利用した、国際的議論の活性化
- ④ 地域協力の強化に向けた議論による共通理解の形成
- ⑤ 多様な主体(国際機関・援助機関、国、地方公共団体、企業、研究機関など)の連携を通じた様々な協力活動の強化・促進
- ⑥ 実効ある対策の実施・促進により、大気汚染による影響を緩和

川崎市・瀋陽市都市間連携事業(案) ②

3. 事業スキーム



川崎市・瀋陽市都市間連携事業(案) ③

4. 2014年度実施項目(案)

- ① 大気汚染の実態把握及び温室効果ガス排出対策を含む大気環境対策に係る調査
- ② 瀋陽市職員を対象とした、PM2.5対策及び大気環境対策に関する研修の実施
 - (a) 施策研修
 - ・域内での環境大気の常時監視と住民に対する情報提供の仕組みなど
 - (b) 技術研修
 - ・大気汚染物質のモニタリング技術
 - ・大気汚染物質の自動測定機の基本原理 など

川崎市・瀋陽市都市間連携事業(案) ④

③ 大気汚染物質モニタリングに関する技術交流

(a)瀋陽市環境保護局技術担当者を対象としたセミナーの開催

- ・自動測定器の原理、保守、点検、構成
- ・モニタリングの精度管理 など

(b)大気汚染物質モニタリングに係る情報交換

- ・モニタリングの現状
- ・モニタリング実施における課題及びその対策
- ・PM2.5の成分分析を通じた実態及び発生源の解明など

④ PM2.5対策を始めとした大気環境対策に関する国際会議の開催